

鷹島への交通アクセス



●公共交通機関の場合

長崎 空港	バスで 約12分	JR 大村駅	JRで 約40分	JR 早岐駅	JRで 約10分	JR 有田駅	MRで 約25分	MR 伊万里駅	MRで 約30分	MR 鷹島口駅 今福港	高速船で 約25分	鷹島町 殿ノ浦港
JR 長崎駅	JRで約105分											
JR 博多駅	JR特急で 約85分											



●お車の場合

長崎	長崎自動車道で 約60分	武雄北方IC	国道498号線で 約30分	伊万里市	国道497号線で 約40分	鷹島町
博多	福岡都市高速で 約15分	福岡西料金所	西九州自動車道で 約40分	北波多IC	国道204号線・ 県道217号線で 約35分	鷹島町



●鷹島乗合タクシー(要予約)

TEL.0955-48-2551

【運賃】●大人／200円 ●小人／100円

※エリアを超える場合は300円

【予約について】

①受付時間は午前8時から午後7時までとなります。②利用日の3日前から予約できます。③当日予約は2時間前までをお願いします。④8時台出発便までは、前日までにご予約をお願いします。⑤予約を取り消す場合には必ずご連絡してください。※乗合タクシーであるため、お迎えの時間や目的地への到着時間に余裕を見てご利用ください。

※貸し切りでのご利用につきましては、別途ご相談ください。



お問い合わせ ●一般社団法人まつら観光物産協会

〒859-4501 長崎県松浦市佐佐町浦免1038-3 Tel.0956-76-8822 Fax.0956-76-8834



2021.4.Print



「蒙古襲来絵詞(模本)」
(九州大学附属図書館所蔵)

蒙古襲来 元寇と鷹島 元寇マップ



管軍総把印

鉄製冑

褐釉陶器四耳壺

木製舵(4号舵)

長崎県 松浦市
松浦党発祥の地

鷹島海底遺跡は、鷹島の南岸地域に所在する蒙古襲来に関わる戦場跡です。蒙古襲来(文永・弘安の役)は文永11年(1274)・弘安4年(1281)の二度にわたり元軍が日本に来襲し、鎌倉幕府瓦解の遠因となるなど、日本史上著名な事件です。

鷹島は、『蒙古襲来絵詞』、『八幡愚童訓』等にその名が見え、鷹島沖は弘安の役の際に元軍の船団が暴風雨により沈没した地点として伝えられています。島の南岸では、古くから地元の漁師によって壺類や刀剣、碇石などが海底から引き揚げられていました。

『蒙古襲来(元寇)』と鷹島

そして、昭和55年度の最初の調査以降、現在では約4,000点もの遺物が出土しています。その中には、海底に食い込んだ状態で発見された木製碇・碇石や、『蒙古襲来絵詞』に描かれた「てつはう」などがありました。また地元住民が神崎港で採集したものの中には、元の公用語であるバスの文字で書かれた「管軍総把印」もありました。これまでに出土した遺物の調査・研究により、弘安の役で沈没した元軍の船の積載品であることが確実となり、鷹島が蒙古襲来終焉の地であると立証されたのです。



てつはう

「てつはう」は炸裂弾で、土を球状に成型し焼き固め、内部の空洞に火薬のほか、鉄の破片や陶磁器の破片が入られており、殺傷能力が高かったと考えられます。爆発すると粉々になってしまいますが、鷹島では、未使用の状態で海底から見つかっています。



管軍総把印

長崎県指定有形文化財

「管軍総把印」は昭和49年(1974)、神崎港の海岸で島民の方が発見しました。青銅製で元の公用語であるバスの文字で「管軍総把印」と刻まれています。総把というのは元の将校の位のことと、現在の中隊長程度になります。鈕の右側には漢字で「□軍□把□」とわずかに判読できる字が刻まれ、左側には「中書礼部至元十四年九月造」という文字が刻まれています。至元とは元の元号の1つで、至元14年は西暦1277年にあたります。

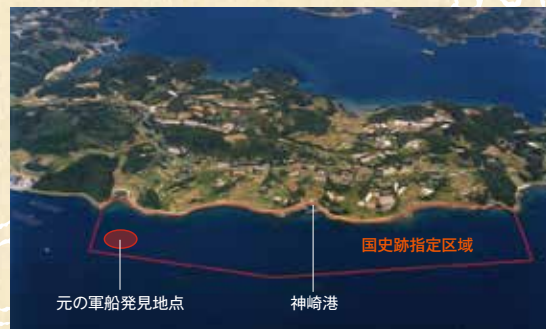
平成23年(2011)には、元の軍船の竜骨と外板が残る船底が発見され、「元寇の島」鷹島は再び大きな注目をあびるところとなります。平成24年には、これまでの研究の成果から鷹島海底遺跡の一部である鷹島南岸東部の神崎港沖海域約384,000㎡が「鷹島神崎遺跡」として海底遺跡では初めて国史跡に指定されました。さらに、平成27年、国史跡鷹島神崎遺跡の指定範囲東側に隣接する地点で2隻目の沈没船が確認され、今もなお、調査・研究がすすめられています。



元の軍船

全長40mに復元された元の軍船(CG)

「元の軍船」は平成23年(2011)10月、幅約50cm、長さ約12mの竜骨(キール)といわれる部分が発見され、船体の大きさは25m以上と推定されています。これは元寇史実の解明はもとより当時の造船技術を得る貴重な発見となりました。鷹島神崎港の南岸海域は平成24(2012)年3月、「鷹島神崎遺跡」として国史跡の指定を受けました。



鷹島神崎遺跡

鷹島神崎遺跡に指定された海域。数多くの遺物が引き揚げられています。



松浦市鷹島町は蒙古襲来終焉の地です。鷹島沿岸は、蒙古襲来に係る世界的にも稀な海底遺跡として大きな注目を集めています。

探索コース&元寇マップ

4時間コース

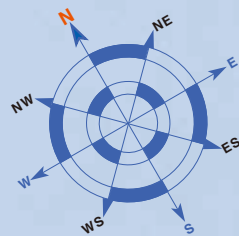
鷹島エリア

- 1 松浦市立埋蔵文化財センター/60分
移動(2分)
- 2 兵衛次郎の墓/10分
移動(5分)
- 3 鷹島神崎遺跡(神崎港)/10分
移動(16分) ちょっと立寄り
- 4 開田の七人塚/10分
移動(12分)
- 5 対馬小太郎の墓/10分
移動(7分) ちょっと立寄り
- 6 龍面庵(少式公園)/10分
移動(3分)
- 7 元寇記念之碑(宮地獄史跡公園)/15分
移動(5分)
- 8 モンゴル村/30分
移動(10分)
- 9 道の駅・鷹ら島/20分 お土産

5時間コース

鷹島・今福・星鹿エリア

- 1 松浦市立埋蔵文化財センター/60分
移動(7分)
- 7 元寇記念之碑(宮地獄史跡公園)/15分
移動(65分)
- 10 今福神社/15分
移動(15分)
- 11 梶谷城跡/15分
移動(36分) ちょっと立寄り
- 12 千人塚/10分
移動(5分)
- 13 逃げの浦の石壁/10分
移動(15分) ちょっと立寄り
- 14 海のふるさと館/20分 お土産



1 松浦市立埋蔵文化財センター

4&5時間コース



松浦市立埋蔵文化財センターでは、鷹島海底遺跡の調査で発掘された武器武具やいかり、日用品など3〜400点以上の遺物を展示・公開しています。



大楥 この大楥は蒙古襲来いわゆる元寇の元軍船の楥で、1281(弘安4)年の弘安の役の際の折の台風で沈んだと考えられています。平成6年11月神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査により発見された複数の楥のうち最大のものです。長さは2.74m、欠けていなければ推定で7.3mあったとみられ、重量は碇石を含めて1トン近くだったと考えられています。このことから、この楥を使った船は40mほどの大きさであったことが推測されています。



主な展示内容

管軍総把印

【元寇資料】元寇遺物・青銅印／つば／陶磁器片／石製品・鉄製品・つばは、【考古資料】土器／石器／その他、【VRコーナー・トリックアート】

- 開館時間:午前9時〜午後5時
- 休館日:毎週月曜および12/29〜1/3(月曜が祝祭日の場合、翌日以降最初の平日)

入館料 個人 大人310円・小〜高150円
団体(10名以上) 大人240円・小〜高120円

●住所:長崎県松浦市鷹島町神崎免146

埋蔵文化財センター……………Tel.0955-48-2098

AR蒙古襲来 ~甦る元寇船~ 好評公開中!!

鷹島海底遺跡をスマートフォンで身近に体験できるAR(拡張現実)アプリをご提供しています。このアプリでは、スマートフォンやタブレットの画面に実際の景色とCGが重なった画像が現



AR蒙古襲来

元寇 検索

※ダウンロード無料



2 兵衛次郎の墓

4時間コース



文永11年(1274)10月5日、元軍が対馬に侵入。守護代宗助国は一族80余騎を率いて奮戦しましたが、ついに及ばず戦死の直前、家臣の対馬小太郎及び兵衛次郎に命じて蒙古襲来を太宰府に報告させました。2人は、玄海の荒波を乗り越え博多に上陸し、その使命を果たしました。その後転戦し弘安の役を戦いますが鷹島で戦死。高さ1mの自然石が兵衛次郎の墓と伝えられていて、周辺には五輪塔、供養塔が祀られています。兵衛次郎の墓は「石堂様」とも呼ばれ、対馬小太郎とともに故郷を離れ、ともに鷹島での戦いで最後を遂げた悲劇の人物です。【市指定史跡】

3 鷹島神崎遺跡(神崎港)

4時間コース



「鷹島神崎遺跡」は、海底遺跡としては日本で初めて国史跡に指定されました。2度の蒙古襲来の舞台となった鷹島。弘安の役の際には、暴風雨により数千隻もの元軍の船が沈没したと伝えられています。鷹島南岸の海底では、木製楥やつばなど約4千点以上の遺物が出土しており、平成23、24年度の調査では元軍の船の構造がわかる竜骨(キール)と外板が残る船底が発見されました。また、神崎免の海岸では、貝堀中の島民により「管軍総把印」が発見されました。【国指定史跡】

5 対馬小太郎の墓

4時間コース



対馬国守護代宗助国の家臣、対馬小太郎は文永の役で兵衛次郎とともに蒙古襲来を太宰府に急報した一人。弘安4年(1281)再び元軍が襲来。鷹島襲来の知らせに、少式景資の配下として奮闘中、重傷を負い自害したと伝えられています。遺言に「我が屍を埋るに對馬を望むべき丘陵に於いてせよ」と言い残したので、對馬をはるかに望むことができる丘に、1.5mほどの自然石で作った墓が建てられたと伝えられています。晴天の空気が澄んだ日には對馬を望むことができ、島民からは「對馬様」と呼ばれ親しまれています。【市指定史跡】

4 開田の七人塚

4時間コース



文永の役の時、元軍は鷹島東浜から上陸し、島民のほとんどを虐殺しました。開田付近の一軒家には一家8人が隠れていたが、不幸にも飼っていた鶏が鳴いたため、「鶏がいるなら人も住んでいるはずだ」と元軍は山の中を捜し一軒家を発見しました。そのため、8人家族のうち7人が殺され、五右衛門風呂の灰だめに隠れていたお婆さん一人が助かったと言われています。それ以来、開田では鶏を飼わないようになりました。【市指定史跡】

6 龍面庵(少式公園)

4時間コース



弘安の役に少式景資が本陣を置いた陣屋跡と伝えられています。元軍の船団は大暴風雨によりほとんど沈没、残敵5000人余りが鷹島に上陸したとの急報に博多から駆け付け、約1週間にわたる戦いの末、元軍を全滅させたといわれています。境内にはこの戦いで戦死した吉岐の石田五郎為治、西牟田弥五郎の墓や供養塔が建っています。【市指定史跡】

7 元寇記念之碑(宮地嶽史跡公園) 時間コース



玄界灘が一望できる鷹島で最も眺めの良いところ。公園内には、昭和51年に猿田彦神社境内より移転建設した「元寇記念之碑」が建っており、碑の裏面には元寇の経過と元軍せん滅の史実が刻まれています。また、宮地嶽神社、愛宕神社も祀られています。【市指定史跡】



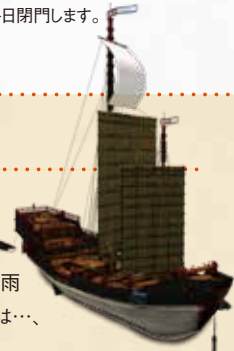
8 モンゴル村 4時間コース



“元寇の歴史を中心に新しい町づくりを”と平成5年5月に、蒙古襲来時に敵兵を迎撃したと伝えられている「遠矢の原」にオープン。施設内にはモンゴルから運んできたゲルが設置されているほか、モンゴル草原やコンビネーション遊具、遊歩道などが楽しめます。草原の頂上からは360度海を望むことができます。今では、モンゴル国との交流も深まり、カラコルム地方のホジルト市とは姉妹都市になっています。

■開門時間／9:15～16:45

*12月29日～1月3日は終日閉門します。



蒙古襲来(元寇)とは?!

◎文永の役

元の軍船約9百隻、約4万人で対馬を襲い、さらに伊万里湾にある鷹島まで上陸。その後、博多で戦いの場となりましたが、暴風雨により元軍は引き上げたといわれています。しかし、実は計画的な引き上げだったのでは…、という説が有力になりつつあります。

◎弘安の役

二度目は、軍船約4千4百隻、14万人あまりの大軍で再びやってきました。東路軍と江南軍の二手に分かれて博多を攻めます。しかし、日本軍が石塁をさすいて防戦したことで上陸に失敗した東路軍は一度撤退し、全軍で博多を攻める計画を立てます。平戸沖で合流した東路軍と江南軍は、博多に向かう途中に鷹島沖で停泊していました。そこで暴風雨に襲われ、元船の大部分は沈没し壊滅的な大打撃を受けました。



A 供養の元 ちよっと立寄り



蒙古襲来で元軍の首をつるしたといわれており、明治維新まではここで罪人の首を切ったと伝えられています。

【市指定史跡】

C 首除き ちよっと立寄り



弘安の役で元軍の兵士の首を斬首し積み重ねたことから「首除き」と呼ばれるようになったといわれています。石碑のそばを流れる中川は、血に染まった刀を洗ったとも伝えられています。

【市指定史跡】

B 鷹島の銅造如来坐像 ちよっと立寄り



江戸時代の終わりに漁師が、原の海岸が魚の群れで、海の色が変わる夢を見て、翌朝その辺りで網を引いたところこの仏像がかかったと言われています。高麗時代前期の作品ですが、対馬、杵岐に見られる高麗仏とは少し作風の趣が異なっており、より中国の影響に近いのではないかと考えられています。元軍が船に安置して礼拝しており、大暴風雨のため、船とともに海底に沈んだのではないかと伝えられています。

【長崎県指定有形文化財】

D 住吉神社 ちよっと立寄り



神功皇后が三韓征伐の途中、荒天のため鷹島に御着船。ここに本宮を置き、海の神である「住吉の宮」を祀られました。境内のアコウの木は県の天然記念物に指定されています。元寇にちなんだ元寇船デザインの御朱印をもらえます。

9 道の駅 鷹ら島 お土産



鷹島肥前大橋の袂にある道の駅「鷹ら島」。新鮮な魚や水産加工品、農産物、島の幸加工所で作られた惣菜やお菓子など品揃えが豊富です。

■営業時間
8:30～18:00(1/1・12:00まで)
年中無休
■TEL.0955-48-3535



住所／長崎県松浦市鷹島町神崎免1636

『蒙古襲来(元寇)』と鷹島

7 『蒙古襲来(元寇)』と鷹島

10 今福神社(歳の宮) 5時間コース



松浦党の祖と言われる源久公が旧暦の12月30日、ぎざが浜からのお宮のろうそくの明かりを頼りに上陸。そこで大晦日を過ごしたため、「歳の宮」と呼ばれました。最初の居城である梶谷城に移るまでをここで過ごしました。源久公が今福神社に陣屋を構えた際、地元の人たちは梶の葉に3つの団子をのせて歓待。そのもてなしにいたく感動した久公は、その後松浦家の家紋として梶の葉の紋を使うようになったそうです。

12 千人塚 5時間コース



御厨海上合戦の舞台となった御厨と隣接する星鹿半島にある塚。元軍の死者を弔うために造られたという伝承があります。弘安の役では大暴風雨に遭った元軍の多くの船団が沈没しました。残党は星鹿にも逃げましたが、御厨(みくりや)海上において肥後の御家人・竹崎季長らが元軍の軍船に攻撃を仕掛けました。

11 松浦党梶谷城跡 5時間コース



今福町の城山(197m)の山頂にある山城跡です。別名を勝谷城とも記されています。平安時代の末に松浦家の始祖源久公によって築城されたとされていますが、諸説あり一定していません。発掘調査により、城跡は山頂部を削平して主郭とし、北側に副郭が配置され、それぞれ石垣が楕円形に囲んでいることが認められました。石垣は後世の積み直しが一部確認できるものの、穴太積みや算木積みに近い積み方が認められます。このことから永禄年間～安土桃山時代(1558～1600)の面影がうかがわれます。

【長崎県指定史跡】

13 逃げの浦の石塁 5時間コース

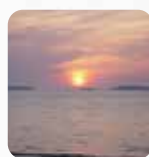


築造年不詳。元寇防塁とも伝承される石塁です。この地に上陸した元軍がここから逃げて行ったため「逃げの浦」との地名が付いたと伝わっています。星鹿城山の北岸にあった金倉の石塁とあわせ総延長千mの防塁が築かれていました。戦争時の採石や台風被害により石塁はほとんど崩壊しており、現在はわずかな石積みを残すのみとなっています。

E ぎざが浜 5時間コース



船に乗り松浦の地にたどり着いた源久公。一行が最初に着いたのがぎざが浜です。その時に浜の鳴き砂が「ぎざ」と音を立てたことから、「ぎざが浜」と呼ばれるようになりました。



G 星鹿城山展望台 5時間コース



F 調川道路公園(松浦水軍の兜) 5時間コース



海からの侵入者を見張るかのように構える兜。元寇など、外国の脅威にさらされてきた松浦を幾度となく守ってきた松浦党。その兜が「災い事は許さん」と言わんばかりの眼力でにらみをきかせているよう。

外敵防備の拠点となった城跡といわれており、建久2年(1191)源頼朝の命で、加藤左衛門重氏がここに刈萱(かるかや)城を築いたと伝えられています。山頂には本丸の輪郭が残っており、天気の良い日は壱岐、対馬まで見渡すことができます。

14 道の駅 松浦海のふるさと館



国道204号と204号バイパスの合流部にある道の駅松浦海のふるさと館は、鮮魚をはじめ美味しく加工された魚介類などの販売をしています。

■営業時間／7:00～19:00 年中無休
■TEL.0120-062-004

住所／長崎県松浦市志佐町庄野免226-30

『蒙古襲来(元寇)』と鷹島